

対談

香川経営研究集会

関わることの意義と本質



出席

第30回香川経営研究集会 渉外部会長

小西 啓介氏

(中讃第2支部)

インタビュー

広報・情報化委員会

島田 由衣氏

(高松第5支部)

司会 最初に、全体的なことからお聞きします。香川経営研究集会は、昨年より高松以外の会場で開催されていますが、その経緯についてお聞かせください。

小西 まずは、30年という長い歴史を繋いでいただいた同友会の諸先輩方に感謝したいと思います。一口に30年と言っても、それを繋いでいくことは簡単ではなかったと思います。この記念すべき第30回目の開催に関われたことに責任を感じると同時

に、必ず成功させるという気持ちで一杯です。昨年に引き続き、実行委員長は副代表理事の島田治男さんですが、小豆島、つまり県内における地方開催は、島田実行委員長の熱い想いの結実です。その想いとは、同友会の存在価値や意義を県土全域に広め、深めることだと思います。実は、前回の丸亀での開催時に島田実行委員長から、「次回は小豆島で開催を、その次は東讃エリアで開催したい」というお話がありました。そのときは、半分冗談のように受け止めたのですが、丸亀開催を無事終え、一定の成果と手応えを感じたことから、小豆島開催の現実味が増してきました。島田実行委員長は常に、地域社会から何を求められているのかを考え、それに対して問題意識を持ち、新しいことにチャレンジすることの必要性を強く感じておられます。以上のような流れで、今年は小豆島開催が決まりました。

司会 丸亀でも準備が大変だったのではないですか。

小西 それはあったと思います。会場の準備から当日の設営、事前の打ち合わせ等、丸亀開催でもこれまでとは違うことが準備の段階でもたくさんありました。ましてや、今度は



海を越えるわけですから、相当厳しいものがあります。それに加えて開催が2月なので、風雨や雪で開催が危ぶまれるのではないかとという危惧があります。

司会 先ほど、少しお話に出ましたが、改めて小豆島での開催の意義と目的についてお聞かせください。

小西 質の高い経営研究集会を開催することで、地域社会における同友会の存在価値を高めようというのが、意義というか目的です。今回の開催は第30回ということ、とても重要な節目の年です。30年という長い歴史の積み重ねには大きな意味がありますし、また関わってこられた方々にとっては、学びの集積の歴史でもあると思います。ただ、その一方で開催の意義や目的の形骸化が、経年ともに進行しているという事実が見受けられるように思われます。会員の意識が、年に

一度の恒例行事だから、とりあえず形にという安易なものになっているような気がします。そうではなく、加速度的に変化する時代に対応するためにも、既成概念に疑問を持ち、開催の意義を再確認し、高めていきたいと考えています。今回の小豆島開催（地方開催）のハードルはあらゆる面で高く、そのために徹底した準備が求められています。ただし、実行委員にとっては未経験の事柄が多く、クリアしなければならぬ問題や課題がたくさんあります。そのために、徹底した主体者意識が求められています。実はこれこそが同友会活動の真髄であり、主体者としての活動が深い学びを得ることに繋がり、またその学びが自社経営に大きく影響を与えることになるのではないかと思います。活動で芽生えた会員同士の一体感や連帯感が、地域社会発展の原動力になっていくことが、本来あるべき姿ではないでしょうか。

司会 ありがとうございます。とてもよくわかりました。渉外部会長ということ、下調べや準備のために何度も島を訪れておられると思いますが、足を運ばれて初めて気づいた島の魅力はありますか。

小西 それはいっぱいあります。何とんでも一番の魅力は自然と人です。島の北側、岡山側には手付かずの自然が残っており、時間がゆったり流れていま

す。それから、ユニークな発想でいろんなことに取り組んでいる人がいる面白いところですよ。

司会 小豆島開催ということで、特に力をいれていることや、ポイントはありますか。

小西 実は面白い仕掛けがいくつかあります。島ゆえのハードルの高さがあると先ほどお話ししましたが、逆にそれが、結束力の強さを生み、知恵やアイデアを出し合うことに繋がっているようです。もう一つは、基調講演を含む全報告者を小豆島在住の方にお願ひすることです。おそらく、地域を限定して報告者を選んだことは、今まで一度もなかったと思います。ただし、それに関しては会員さんから異論が出ました。とても大きなチャレンジですが、あえて同友会の枠を取り払うことにしました。大切なことは、担当者その意義を理解し、完成度の高いものに仕上げることだと受け止めています。

司会 第5回の実行委員会を終えた段階での進捗状況をお聞かせください。

小西 一言でいうと、熱を帯び始めたんです。最初の頃は、小豆島開催に関して否定的な意見を述べる人が結構多かったのですが、地域に対して同友会の認知度を高め、存在意義や価値を高めていきたいという目的が会を重ねるごとに意識が変わり、今はたぶん大半のメンバーが、

小豆島、でも大豆島!?



まんが / 島田 由衣



面白いじゃないかと思っ
司会 ところで渉外部会
 しているところですか。

小西 簡潔にいうと、会外
 加依頼、後援依頼が主な役割
 です。大事

なことは、渉外部会の会員全員が開催の
 意義と目的を共有することであり、その
 思いを携えて各機関や団体にご挨拶に回
 りたいと考えています。

司会 これまでの活動を通して感じたこ
 とはありますか。

小西 そうですね、バラバラだったもの
 が、一つの塊(組織)になりつつあると
 という実感があります。今後実行委員には、
 今まで以上に具体的な行動が要求されま
 すが、進捗の過程で想定外の課題が出て
 きたときは、メンバーの気持ち折れな
 いように、しっかりとサポートしなければ
 ばと考えています。

司会 経営研究集会をつくる側として、
 関わることの意義と本質をお聞かせくだ
 さい。

小西 同友会活動は経営研究集会に限ら
 ず、それらの全てを自社経営に活かして
 、「なんぼ」と、私は思っています。た

だしそれは、決して同友会活動を営業活
 動の場にするものではありません。あく
 までも、同友会は経営者の学びの場です。
 個々人が、役割を担う中で深掘りした学
 びと経験を自社の経営に活かせるものが
 あるはずですよ。

司会 ありがとうございます。最後に
 今後の意気込みと会員さんに伝えたいこ
 とをお願いします。

小西 来年2月の開催に向けて、残りの
 期間でどれだけ密度の濃い準備ができる
 のか。これが当日の完成度を大きく左右
 すると思っています。実行委員の方々と
 情報共有に努め、連携を密にし、皆さん
 に満足していただける経営研究集会にし
 たいと考えています。将来、「あの小豆
 島開催は凄かった」と多くの方に語って
 いただけるようなものになりたいと思いま
 す。皆さんの協力とご参加を心よりお
 願いしたいと思います。